

# 仏様のおはなし新シリーズ第112集「私たちのちかい」

ご門主が二〇一六年の伝灯奉告法要で「念仏者の生き方」を示されました、さらにその肝要を四力条にまとめられたのが、「私たちのちかい」です。

一番目に、「自分の殻に閉じこもることなく穏やかな顔と優しい言葉を大切にします微笑み語りかける仏さまのように」とあります。仏さまの教えを聞いて自分の姿を知らされるということは、自分がいかに殻に閉じこもっていたかが知らされるということなのです。

私も今年で七十歳になりました。人生の半分を住職として務めてきました。いつのまにか寺に関して自分が支えてきたのだと思っていました。実際はご門徒の支えがあり、坊守の支えがあり、家族の支えがありました。

「南無阿弥陀仏」の呼び声が、自分の殻に閉じこもっている私の心に働いて、自分のことだけにとらわれていたのが、周りの人も、同じ願いに生かされている念仏者であり、支えあつていくかけがえのない人たちだと、気づかせていただきました。

新型コロナウイルス感染禍に孫が誕生しました。我が家にとってはこの上ない喜びになりました。

孫が生まれる以前は同じ家にも、互いに関心がなく、相手を思いやること  
があまりなくて、優しい言葉や笑顔で話しをすることが少ない家族でした。

孫が生まれてからは、孫を中心とした生活にかわりました。家族全員が気持ち  
を一つにして育てています。孫と触れ合うと、いつも癒してくれます。全員が笑顔  
になり、優しい気持ちになります。

「和顔愛語」という言葉が出てきます。和  
らいだ顔つきをして優しい言葉でいつも人と  
接するということです。

仏さまもいつも私たち一人ひとりに対し  
て、微笑みと優しい言葉で、仏さまの浄土に  
生まれてほしいと願われていて、呼びかけら  
れています。

仏さまの穏やかなお心をいただいた私た  
ち念仏者は、仏さまのように穏やかで、優し  
い言葉を心がけて、生活していくことが大切  
になります。

念仏者の生き方が少しでも、社会に役立  
つことになれば幸いです。



福岡組

検索